

平成30年 9月

上田直樹 学位論文審査要旨

主 査 汐 田 剛 史
副主査 植 木 賢
同 磯 本 一

主論文

Endoscopic classification can be predictive for relapse in ulcerative colitis

(超拡大内視鏡分類は潰瘍性大腸炎における再燃の予測因子になり得る)

(著者：上田直樹、磯本一、池淵雄一郎、菓裕貴、河口剛一郎、八島一夫、植木賢、
松島加代子、赤司太郎、植原亮平、竹島史直、林徳眞吉、中尾一彦)

平成30年 Medicine DOI:10.1097/MD.0000000000010107

参考論文

1. Expression of doublecortin and CaM kinase-like-1 protein in serrated neoplasia of the colorectum

(大腸鋸歯状腫瘍におけるダブルコルチン及びCaMキナーゼ様1蛋白の発現)

(著者：森尾慶子、八島一夫、田本明弘、細田康平、山本宗平、岩本拓、上田直樹、
池淵雄一郎、河口剛一郎、原田賢一、村脇義和、磯本一)

平成30年 Biomedical Reports 8巻 47頁～50頁

審査結果の要旨

本研究は潰瘍性大腸炎において、超拡大内視鏡によるEC分類が再燃予測に有用か否かを検討したものである。その結果、EC分類と病理組織所見に相関がみられた。また、EC分類でGradeAは再燃がなかったが、Gradeがあがるほど再燃の割合が多くなった。すなわち、UC患者に対する超拡大内視鏡による粘膜構造観察は、病理学的所見との関連性があり、再燃の予測にも有用と考えられた。本論文の内容は、超拡大内視鏡観察が潰瘍性大腸炎の再燃予測に有用であることを示し、現状の問題点と課題を明らかにしたもので、明らかに学術水準を高めたものと認める。